

平成21年度ホッカイドウ競馬の開催等の概要

1 基本的な考え方

「北海道競馬改革ビジョン」を着実に推進し、北海道競馬を安定的に運営していくため、21年度においては、競走実施公益法人（(社)北海道軽種馬振興公社）へ開催業務を委託するとともに、門別競馬場の全日程をナイター開催するほか、南関東競馬等との連携強化、競走番組の充実による発売拡大、更には開催経費の節減、効率化を図るなど、北海道競馬の一層の運営改善に取り組む。

2 開催日程

- ・前年度と同様82日間とし、ゴールデンウィークにあわせ札幌開催から開幕
- ・門別競馬場を主场化し、道内外で売上げが期待できるグランシャリオナイターを開催

	平成21年度			平成20年度			増 減	
	回数	日数(うち祝日開催)	期 間	回数	日数(うち祝日開催)	期 間	回数	日数(うち祝日開催)
札幌	2	6(3)	4/29~5/14	2	8(2)	4/29~5/22	0	▲2(1)
旭川	—	—	—	11	59(1)	5/28~10/16	▲11	▲59(▲1)
門別	14	76(3)	5/20~11/19	3	15(0)	10/21~11/20	11	61(3)
計	16	82(6)		16	82(3)		0	0(3)

3 21年度の運営改善対策

[売上拡大・収入確保]

- ・収益性の高い南関東を中心とした場間場外発売の拡大
- ・首都圏ファンへの競走情報提供の拡充による発売額の拡大
- ・民間活用型場外発売所の開設による収益確保

[魅力ある番組編成]

- ・重賞競走の実施時期及び距離の見直しによる競走体系の充実
- ・早期出走手当の充実による春季出走頭数の確保と魅力ある番組の提供

[経費削減・経営合理化]

- ・旭川競馬場撤退による開催経費の削減
- ・競馬事務所の廃止と新体制移行による人件費及び管理事務費等の削減

4 発売目標額

- 発 売 目 標 額 : 117.9億円 (20年度実績: 113.9億円)

5 他主催者競馬の場間場外発売

- ホッカイドウ競馬が非開催日となる週末や冬季間は、他の地方競馬を発売
発売日数: 年間276日間を予定(実日数ベース、道営82日間を合わせると358日間)

6 一般会計からの借入額

(単位: 億円)

区 分		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
一般会計 借入額	当初計画	10.8	10.9	9.5	5.5	3.0
	実 績	14.9	10.9	8.3	4.3	—
	差 引	4.1	0.0	▲1.2	▲1.2	—

門別競馬場ナイター施設等整備について

1 施設整備概要

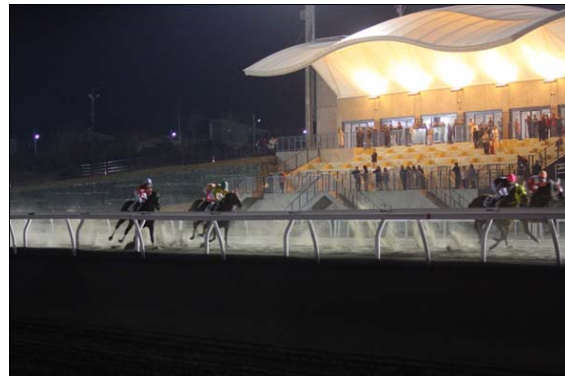
(1) ナイター施設

① 走路の照度設定及び照明配置

- 旭川を確実に上回り、大井・川崎に劣らない明るさとする。
[門別：440Lx、旭川：280～350Lx、大井・川崎：400～500Lx]
- 照明高を確保し、馬・騎手にとり眩しくなく、ムラにならない配置とする。
[門別：照明高19m、旭川：照明高14m]

② 走路以外の照度設定：ナイター開催に支障のない照度とする

- パドック：走路並みの明るさとする。
- 装鞍所：作業に支障のない明るさとする。
- 厩舎馬道：厩舎出入口を中心に、馬の通行に支障のない明るさとする。



(2) スタンド施設

- 収容人員は800人(含む立ち見)とし、極力、椅子席での確保を図る。
- 重量構築物とはせず、デザインにも優れたテント構造とする。
- 場内に次の施設を配置する。
 - ・310吋大型モニター1台及びオッズ・レース実況用モニター適宜
 - ・売店(2カ所)及びトイレ
 - ・投票所(自動発売機及び払戻機 全8台)



(3) パドック

- 現行パドックは、走路に隣接しているため、近年増加している場間場外発売が円滑に実施できないことから、スタンドに隣接した厩舎側に新たに整備する。

2 事業費

(単位:百万円)

工事等	事業費	工事の内容	備考
ナイター施設	794	走路・装鞍所・馬道等照明 鉄骨平屋建、膜屋根構造	地全協の競馬活性化事業で実施 同上及びJRAの競馬振興促進事業で実施
スタンド等整備	357		
設計監理料他	66		
合計	1,217	(補助金:6.08億円、道負担:3億円、産地負担:3.09億円)	

* 競馬活性化事業：地全協補助金(5.6億円)、競馬振興促進事業：JRA補助金(0.48億円)

* 大型モニター整備はJBC協会が負担。

* 事業費は、H21年3月末現在。